

牛久：学校周辺に見る自然

第29号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2022年1月30日発行

< 秋のみずべ公園 ～チョウ・ガ >

11/4、ひたち野うしく小みずべ公園、秋の生き物^{かんさつ}観察、今回はチョウやガの仲間^{なかま}です。



シジミチョウのなかま、ムラサキシジミ（上2枚）とムラサキツバメ（下2枚）。どちらも、^{せいちゅう}成虫で冬をこします。



シジミチョウのなかま、ウラギンシジミ（おす）。こちらも、^{せいちゅう}成虫で冬をこします。



^{ようちゅう}幼虫で冬をこす、ベニシジミ（左）とヤマトシジミ（中・右）。



成虫せいちゆうで冬をこすタテハチョウ科かのなかま、ルリタテハ、とキンバエ（左）。キタテハ（右）も成虫せいちゆうで冬をこします。



チョウのなかまではアゲハチョウ科はさなぎで、モンシロチョウのなかま（シロチョウ科）はさなぎようちゆうか幼虫、シジミチョウ科やタテハチョウ科のなかまは種類によって成虫せいちゆうから卵までそれぞれ、セセリチョウ科のなかまは大部分が幼虫ようちゆうで冬をこすようです。【理科支援員：宮内】

牛久市周辺では冬をこせないといわれるタテハチョウ科かのなかま、ツマグロヒョウモン（おす）。



季節はずれのオオジシバリ蜜みつを吸うキタキチョウと花粉をなめに来たホソヒラタアブ（左）。コセンダングサにも（右）。どちらも、成虫せいちゆうで冬をこします。



幼虫ようちゆうで冬をこす、モンキチョウ（左上）とネグロミノガ（右：みの）、ヨトウガ（左下）。